**説教20230312ローマ7：13-25ヨハネ2：13-22「憎んでするのでなく」**

**今日のヨハネの福音書の箇所で、21節**

**イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。**

**と説かれていますが、これは大変重要な事であります。ただしこれだけでは何のことかわかりませんので、説明してまいりましょう。**

**「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。**

**わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」**

**このようにイエス様は言われましたが、皆様この御言葉は良く知っておられるのではないでしょうか。私たちは、このイエス様の言葉の通り、イエス様とつながっていなければ、実を結ぶことが出来ません。イエス様はぶどうの木で、私たちはその一つ一つの枝なのです。そしてこのぶどうの木というたとえが物語っているように、私たちは、この地上に生え伸びて行って、イエス様と言う全体を通して、この地上にあってつながっていくのであります。**

**このぶどうの木のたとえをもうちょっと現実に即して言い換えれば、私たちは、この地上でどこに行ったとしても、又、どこに移住したとしても、イエス様と言う全体によってつながっています。私たちはイエス様から逃れようと思っても逃れられし、又、イエス様のことを無視して生活していても、まことの実を結ぶことが出来ないのです。幸いなことに、今、どこに行ってもキリストの教会があります。各地にたてられた教会と言う場所は、ぶどうの木における節目のようなところであり、私たちはそこにおいて、イエス様の御言葉と言う養分を摂取して、又この世の中に押し出されていくのです。但し、そうやって出て行った世の中にはイエス様がおられないのかと言えば、そうではありません。むしろイエス様は、教会の中にも外にもどこにでもおられるお方です。そうしてイエス様は、いつも絶えずあなたの立ち居振る舞いを見ておられます。**

**人間と言うのは、誰しも視野が限られています。自分が好きだとか、立派だとか、望みがあると言った、自分本位の思いや嗜好や願望に囚われてしまって、厳しいことや面倒なことを言うイエス様のことは見られなくなります。**

**私たちが洗礼を受けてクリスチャンとされるということは、そのイエス様がいつも見ておられて、私を導いてくれるのだということを認めて、イエス様を自分の心と体のうちに御迎えする、住まわせるということです。**

**「イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。」**

**イエス様の体は、ぶどうの木のように、その枝である私たちを一つにしていかれます。私たちは、各自の内にイエス様をお迎えすることによって、イエス様と一体とされ、又、兄弟姉妹と一体とされるのです。**

**教会と言うところは、キリストがその頭、あたまであり、その体が私たち兄弟姉妹一人ひとりであり、又、この建物であり、設備であります。最も大切なことは、教会は、頭であるイエスキリストと一心同体であるということです。そういう意味で、キリストはこの一つの建物である教会に留まることはありません。キリストは私たち一人ひとりの内に住んで下さって、この世の中に留まることなく行き巡ってくださるのです。**

**コリントの信徒への手紙１　6章 19節**

**知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。**

**ここでは、イエスキリストが私たちの内に住まわれるということを、私たちの体は、聖霊が宿って下さる神殿であり、自分自身のものではないと説いています。**

**先日、うつ病を患っておられる方と長時間お話する機会が与えられました。その方が言うには、私は外目には明るく普通に振舞っていますが、一人落ち着いて思いを巡らす時、自分の内に、ぽっかりと空いた空洞があることに気付き、とても苦しくなります。その空洞に全ての喜びや活力が吸い込まれてしまって、もう一歩も前に進めなくなり、うずくまってしまうのです、ということでした。**

**自分のうちにある 空洞、これは現代の世の中で暮らす私たちが自ずと形成してしまう空洞なのではないでしょうか。私たちはこの空洞を埋めるために、現代社会でもがいています。ある人は、社会で人に認められ脚光を浴びることによって、ある人は自分の目指す道を深め、その達成や自己実現によって、又ある人は、最愛の人との愛を実らせることによって、その空洞を埋めようとして必死になっています。**

**しかしキリストは言います。**

**「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」**

**私たちは、このキリストの言葉を信じる時、かえって自分の内に空洞があることを喜ぶことさえ出来るでしょう。私たちは、その空しさをイエス様に向かって告白し、ぶちまけて、そしてイエス様にすがりついて、救いを求めるだけで良いのです。そうすれば、イエス様はあなたの心と体の内に住まわれその空洞を埋め、慈しみとまことの内に、あなたを最後まで導いて下さるのです。**

**私たちとキリストが一体となるということは、先週読みました詩編61編にも表れています。この詩編61編は、神様であるイエス様と人間ダビデ、そして人間である私たちが一体となって天にいます父なる神を賛美している歌です。**

**詩編61編2-5節**

**神よ、わたしの叫びを聞き／わたしの祈りに耳を傾けてください。**

**心が挫けるとき／地の果てからあなたを呼びます。高くそびえる岩山の上に／わたしを導いてください。**

**あなたは常にわたしの避けどころ／敵に対する力強い塔となってくださいます。**

**あなたの幕屋にわたしはとこしえに宿り／あなたの翼を避けどころとして隠れます。**

**心が挫ける時と言うのは、もう少し今風の言葉に言い換えれば、心が折れる時ということになるでしょう。私たちは現代社会に暮らしていて、心が折られることが多々あるのではないでしょうか。そしてここで叫んでいる「わたし」が、イエス様でありダビデであり、又今の私たちであります。そして、あなたと言われているのが、天にいます父なる神であります。**

**この様に、今ここにいる私たちは、イエス様とそしてダビデと心を合わせて声を合わせて、一体となって、天にいます父なる神に救いを求め、そして感謝し、讃美を捧げるようにされているのです。**

**今日のロマ書の箇所には、使徒パウロの言葉が記されています。パウロも、日々心折られながらも、自分の内にキリストを住まわせて、日々前進しているクリスチャンの一人であります。そのパウロの言葉を味わってみましょう。**

**わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。**

**わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。**

**もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。**

**それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。**

**私たちは、このパウロの言葉が、彼が回心してクリスチャンになった後の言葉であることに、特に留意したいと思います。私たちはクリスチャンになったからと言って、たちどころに善のみを行い、悪を行わない者に変えられる訳ではありません。むしろ、自分の内に付きまとっている悪の重大性にキリストによって気付かされ、悔い改めの日々を送ることになるでしょう。パウロは言います。**

**善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。**

**わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。**

**パウロほど、イエス様の言うとおりに福音伝道の業に熱心であった人の言葉にして、この様に全く自分の行いを自己評価できないのですから、私たちはなおさらのこと自分自身の行いを自己評価できないことになるでしょう。**

**しかし、クリスチャンになってよいところと言うのは、その自分の内にある悪を、又、内に住むキリストによって、客観的に見定めることが出来るということです。パウロは言います。**

**わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。**

**ここでパウロは、私が行ってしまった悪い行いは、私によることではなく、私の中に住んでいる罪によることなのだと言っています。これを聞いて、未だ信仰をお持ちでない方は、なんと責任転嫁をする、ずるい言い逃れなのだと思われるかも知れません。**

**しかし、この次に、パウロはこれまた自分の内に住んでいるイエスキリストに向かって、憐れみと救いを求め、そのキリストを通して父なる神に感謝と賛美を捧げるのです。パウロは言います。**

**わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。**

**このパウロのように素早く、イエス様に向かって罪の悔い改め、神への感謝と賛美を繰り返し行って歩んで行かれれば、わたしたちは、うつという空洞に吸い込まれることはなくなるのでないでしょうか。**

**私たちは、今日の聖書箇所で読み取れますように、善い行いの積み重ねによって、救われるのではないのです。そうではなくて、イエス様を私の心と体の内にお迎えして住んでもらって、私たちがキリストによって生かされることによって、救いの道は実現していくのです。その一番大事な、私たちの内にある神殿を守るために、イエス様は自らの体を張ってそれを守る行動に出て下さいました。今日のヨハネ福音書の箇所の初めに記されています、いわゆるイエス様の宮清めであります。イエス様はなぜ聖書の中で、しかも神殿と言う神聖な場所で、一見粗暴ともみられる、この様な行いに出られたのでしょうか。**

**イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」**

**聖書はこのイエス様の行いが、彼の「あなたの家を思う熱意」から出たものだと語っています。このイエス様の熱意とは、イエス様の住まいである私たち一人ひとりの心と体がが滅びないで、最後まで永遠に神の住まいとして相応しい場所であるように守り整えていく熱意、と、言い換えることが出来ます。**

**私たちは、表に現れる人の行いや印象によって、事の善悪を判断しがちであります。しかし、今日語られました、その行いの根底にあるイエス様の住まいのことに、私たちは、信仰によって目を凝らし、その住まいを、よりイエス様に喜ばれる住まいとして日々整えて参りたいと願います。**

**祈ります**

**父なる神**

**神よ、私たちは善い行いをしようとして、悪い行いをしてしまう愚かな者です。そして自ら挫折し、心のうちに空しい空洞を設けてしまいます。どうかそんな私たちを憐み、救ってください。私の内にある空洞に、御子イエスを住まわせ、いつも私を導き、祝して下さい。**

**私たちは、この世のきらびやかさや、華やかさに心奪われ、かえって心のうちに空洞を広げてしまいます。どうか、私たちが命の与え主であるあなたに立ち帰り、全ての物事があなたから頂く恵みであることを知り、あなたに感謝し賛美をする者へとして下さい。**

**あなたは、私が死の陰の谷を行く時も、私を見捨てず、又新しい恵みの内に生き返らせて下さいます。どうか私たちが現代の死の陰の谷を歩むときに、あなたへの信仰・希望・愛を拠り所として、安心して歩んで行くことが出来ますように。**

**東日本大震災から12年が経ちました。今なお悩み苦しみ、自らの内に空しさを覚える方々に、あなたが寄り添って下さり、あなたがその方々の内に住んで下さい。わたしたちは主にあって、同じ体の枝として、その方々のためにとりなし祈り、働いていくことが出来ますように。**